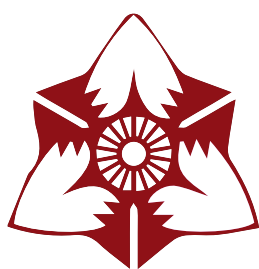


明德義塾中高等学校・鵬翔流吟友会

明鵬吟詠興隆会
会報第2号 2021年2月



2020年度全国高等学校総合文化祭（高知県開催地）
明德義塾中・高等学校の合吟（WEBサイト収録）

ご挨拶

鵬翔流吟友会 会長 梶田 鵬翔



昨年は、初吟会を済ませると新型コロナウイルス感染症の急増に伴い、あらゆるイベントや計画が中止や延期になり、とうとう年末になっても終息を見ずして年を越してしまいました。

中国の留学生達も帰国したまま、なかなか帰れなかった生徒、帰って来ても寮での二週間の自粛生活を余儀なくされるという前代未聞の寂しい状況にあります。

しかし、コロナ禍で気づかされる事もたくさんありました。常日頃、私達が当たり前と思って生活している「衣・食・住」が大変有難く、私達人間は生殺与奪の権能の神によって生かされている存在であり、自分の使命を全うするために常に感謝の気持ちを忘れず、周りの人達への優しさや思いやりの心をもって精進し向上してゆかなければならないと思うのでございます。

さて、今年の干支は「辛丑」です。「辛」とは草木が枯れ新しくなる。「丑」は種から芽が出ようとする。という意味で、これから新しい世界を築き上げようとする時に、繋がりや結びつきを大切にしてくことで、それが成就する年であると言われています。

明德義塾中・高等学校の自然に豊かな環境、素晴らしい先生方のご指導の下、若い生徒の皆さん一人一人が貴重な人材に成長されますことを願い、夢と希望をもってスポーツや勉学、芸術にも大いに励んで頂けますよう心から応援しています。

思えば私の人生の半分以上が、「詩吟」や「漢詩」を通しての価値観だったり、生き方だったりしていますが、先人古哲の揺るぎないその深い精神に触れる時、体中に溢れる勇気や力、そして感謝や感動が生まれます。

常に人としてのあるべき姿や道を求めていく事は非常に大切なことで、明德義塾中・高等学校の教育理念やその徹底した指導環境はとても素晴らしく、世界愛へと繋がってゆくもので、生徒さん達それぞれの絆もこれから、さらに大きく強くなっていく事でございましょう。若竹の如く、すくすくと伸びやかに成長されることをとても楽しみにしています。

私もまた日本の伝統文化である詩吟を楽しみながら、少しでも皆さんのお役にたちたいと考えております。今年は和歌山県で開催されます第45回全国高等学校総合文化祭を目指して頑張りましょう。

明德義塾中学・高等学校と詩吟

塾長 吉田 圭一



私が校長であった2015年の秋に、高知大学名誉教授の大野正夫先生から突然お電話があり、「明德義塾の生徒さんに詩吟の稽古はありますか？」と言われた。大野先生は宇佐大橋のもとにある高知大学海洋生物研究センターに勤務されていた。

明德中学校が開校した翌年から理科の先生として、一期生が2年生になった時から、週に2回来校し、理科の授業を担当していただいた。大野先生のお話しでは「吉田幸雄初代校長から開校したばかりなので、授業を手伝ってほしいと頼まれて、一期生が高校1年生なるまで、3年間、明德の教育に関わった。夕礼にも、時々参加して初代校長が生徒達と一緒に詩吟を吟じられるのを聞いていた」と言われた。

初代校長のことを思い出されたと言う。たぶん30年ぶりと思うが、お会いして私は白髪、大野先生は頭髪も薄くなり長い歳月をお互いに感じた。着物姿の梶田鵬翔先生と来られて、私は「我が校は、二つの詩吟のなかの詩文を、生活の指針としている」と説明した。

今では夕礼に詩文を朗読している。夕礼の時に、詩吟の稽古をしてほしいと願うことになった。

最初の年は 毎月1回、寮生は夕食が終わって夕礼の時に、「勸学」と「桂林荘雜詠諸生に示す」の稽古をしていただいた。晩秋から冬の厳しい寒さの時、4回の稽古が終わり、寮生は朗読していた詩文を、節をつけて吟じることを知ったと思う。翌年度は、運動部の寮長に詩吟の稽古を、午後6時よりしてもらうことになった。生徒達は、まじめに稽古をしたようで、鵬翔流吟友会の五周年記念大会にも出さしてもらい、生徒達から「よい思い出になった」という感想を得た。

さらに翌年、留学生のなかで文化系NIPONクラブができて、そのなかに詩吟部ができた。サークルとして詩吟稽古が行われて、全国大会にも参加した。

私自身も、若い頃に詩吟の稽古をしたこともあり、今でも吟じることはでき、興味を持っている。最近、校長職を離れて生徒が詩吟を稽古しているところをみる機会もなくなったが、梶田先生、大野先生と中西先生が帰るのを、留学生と一緒に玄関まで見送る時にお会いすることがある。生徒達は礼儀正しく、これも詩吟の稽古から身に付いた事とうれしく思う。中国留学生には、漢詩を日本語で吟じることの楽しさと、その中にある礼儀と作法が自然と身につくと思う。今後とも詩吟教育が、明德義塾中学・高等学校の伝統になってゆくことを期待したい。梶田先生ほか、指導をいただいている先生方に、厚くお礼を申し上げます。

2019年度卒業生を送る



2019年7月に佐賀県唐津で開催された全国高等学総合文化祭に、6年生3名、5年生4名の7名で参加した。高知県下4校から参加して、3日間同じ旅館での合宿生活で、楽しい思い出となったが、6年生は2学期から詩吟稽古はなくなり受験勉強に集中することになった。

そこで、12月15日に、6年生とともに忘年会が、宇佐の焼肉屋で開催された。

皆にクリスマスプレゼントもあり、DVDで、佐賀での発表会を再度視聴して楽しく語り、寮食堂よりうまいと大いに食べた。

6年生は自分の目指している分野について語った、華凡欽君は、建築設計士を目指しており、劉天宇君と黄金君は、ビジネス分野の大学を目指していた。3人とも東京の大学に行くことが内定していた。劉君は、面接で詩吟を吟じたと報告した。

再度、卒業式に会う約束をして別れたが、冬休みに中国に帰って、新型コロナウイルスで、3月まで帰国できなくなり、この忘年会が、彼らと会う最後の会食となった。3人に本誌の1号に原稿をお願いしたが、劉天宇君から原稿が届いた。

卒業式には、次の頁に示す梶田先生が作詩した送別の漢詩を5年生が吟じるために稽古をしていたが、卒業式は中止になった。

詩吟グループの思い出 劉天宇



▲唐津の総文祭で中央：劉天宇

2018年の第二学期から、私はNIIPONクラブの詩吟グループに参加しました。今年、高校生活が終わったと伴って、詩吟グループの体験も終わりました。この期間に、多くの感想があります。最初に、初めての発表会を準備しました。あの時、詩吟の題が何であったか、私は今は思い出せない。

その後で、詩吟の勉強を、一生懸命に始めました。姿勢、口形、呼吸、三つの基本的な問題を知りました。その後に広瀬淡窓の「桂林荘雜詠諸生示」を学びました。面白くなってきました。その後、佐賀県の唐津で開催された全国高校詩吟大会に参加しました。

この時に、この吟題でした。佐賀県に唐津の三日間の体験は、私は忘れることはできません。友達は、発表の前に、一生懸命練習をしました。夜は、一緒に祭りに行き、買い物に行き、カラオケに歌って、これは楽しく時刻ごとに懐かしく思い出します。

唐津では、ほかの学校の詩吟グループも一緒に、いろいろな友達とも知り合いました。面白い3日間でした、先生達とも知合いました。学校から、このようなチャンスをもたらしましたこと、うれしくなりました。

12月の焼肉屋の送別会は、楽しい思い出になりました。新型コロナウイルス感染のために、学校が休校になり、先生方にお会いせずに卒業するようになり残念です。ありがとうございました。

贈明德義塾卒業生

梶田 鵬翔 作

上平聲十一真韻

研鑽繼續迓佳辰

贏得學宮旌表眞

明德精神斯裏在

正盈恩澤滿堂春

明德義塾卒業生に贈る
研鑽繼續して佳辰を迓え
贏得得たり學宮旌表の眞
明德の精神斯の裏に在り
正に恩沢に盈つ滿堂の春

面 譜

釈 通

学業を深くきわめる努力を続け、今日めでたい日を迎えました。そして、勝ち得たのは、学び舎での丹精・成果を卒業証書とともに、頌されたのである。

研鑽 繼續して佳辰を迓え
贏得 得たり學宮旌表の眞
明德の 精神斯の裏に在り
正に 恩沢に盈つ滿堂の春

明德義塾の精神は、この卒業証書の中にあります。

正に旅立ちの春のこの会場には、あなた達を思う先生や家族、多くの方々の恵みや慈しみに、満ち溢れているではありませんか。

(この方々の思いにそむかぬように学んだこと生かして、目的に向かってしっかり歩んで参りましょう)

2020年 こうち総文 吟詠剣詩舞部門プレ大会



2019年11月24日（日曜日）に、須崎市立市民文化会館で、翌年の“こうち総文”のプレ大会が開催された。

四国内の剣詩舞サークル、県内の佐賀大会に参加した三高校と明德時塾中・高等学校は、全員による合吟。

「坂本龍馬を思う」を用貝 美紀、王 茂淇、崔 堪抗 の3名が吟じた。



▲全員による合吟

詩吟部の思い出

用貝 美紀 ヨウガイ ミキ

こうち高校総文祭が終わり、今まで続けてきた詩吟の授業も、受験勉強のために受けられなくなりました。最初は、緊張と自信のなさで、私はマイクを遠ざけていました。

しかし、発表本番では、マイクが自分の前であっても、自分ひとりではないと自分を励まし、吟じることができました。

佐賀高校総文祭では、他校の生徒と一緒に泊まり、仲良くなり、女子会までしました。そして着物を着たことや先生方との忘年会も私にとっては宝物です。これから詩吟部も人数少なくなります。

この詩吟グループが、来年も再来年もずっと続いていくことを願います。



陳 嘉儀 チン カギ



詩吟は私にとって、とても意味深いです。私は日本の文化を体験するために留学にきました。詩吟を通して着物を体験し、日本の昔の文化を学びました。

詩吟には懐かしさ、苦しさ、楽しさと、いろいろな感情を含んでいます。また、詩吟は人々の心を動かすことができます。

詩吟のおかげで、友達を作ることができました。詩吟の仲間の絆も高校3年間の宝物になりました。ずっと応援して下さいました先生方に、とても感謝しています。大学に入っても詩吟をやりたく思います。

王 茂淇 オウ モキ



▲写真：左：王 茂淇、右；崔 湛杭

梅雨の季節に総文祭が開催された。私達は学校の代表として吟詠剣詩舞部の大会に参加しました。もし舞台上で緊張があっても、練習の時のことを思い出せば、心が落ち着くだろうと思っていました。

毎週の詩吟授業で梶田先生方は、いつも詩吟のことを私達に教えてくれました。

忘れられないことは三つある。「姿勢」「呼吸」と「口形」です。梶田先生、大野先生と中西先生の迫力ある美しい歌声に本当に魅了された。

2020年 こうち総文祭にこれまで練習を積んできた成果を発揮し、詩吟の美しさを皆さんに届けたいという気持ちを持って、舞台上に上がりました。

そして自分は一生懸命に歌い切った。

大会は本当に成功でした。視聴者はきっと高知の力を見てくれたはずだ。私達は学校を代表すると言うよりも、むしろ高知を代表して総文祭に参加することができて楽しかったと思います。この経験は私にとって、とても貴重な思い出になったと思います。

崔 湛杭 サイ タンコウ

今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、こうち総文祭はWEBサイト開催となりました。今回で私は二度目の参加です。

初めて参加した佐賀総文祭の時は、常に緊張していました。今回の総文祭では、私達は新しい詩吟を歌いました。四月からコロナで、新しい詩吟の練習期間が短くなったけれども、檀上の表現はみんなよかったと思います。日本文化を理解しました。

練習のときに、先生方は真剣に私達の間違いを直して下さいました。二年間の練習で詩吟について無知であった私が、歌えるまでに成長しました。そして先生方と学友とも楽しく活動できたことは、私にとって、素晴らしい思い出になりました。

WEBサイト “2020年こうち総文祭” に参加

2020年7月31日（金曜日）9時～12時、土佐市複合施設“つな一で”において、予定のされていた「全国高等学校総合文化祭高知in KOCHI」が、コロナ対策で、WEBサイトで、開催されることになった。WEBサイトは初めての試みであり、4月にこの連絡が高知県教育委員会から黒竹俊介先生に連絡があった。

高知県内の四高等学校からの参加となり、明德義塾は、楠公が戦場に向かう前に息子に託す思いをナレーションで綴られる構成吟のなかの頼山陽作“楠公子に訣るるの図に題す”を吟じた。留学生には理解が難しい詩文であり、梶田先生は歴史を詳しく説明されていた。

詩吟部には、4月卒業生が抜けて新入部員が1名加わったが、黒竹先生が6年生4名をこの大会のために参加を呼び掛けて9名による特訓が行われた。舞台は広くて素晴らしく、関係者はカメラの後に座り収録が行われた。今回は、短期間の特訓であったが、素晴らしい吟詠で、特別参加者の感想文を書いてもらった。



▲参加者全生徒による合吟

こうち総文祭に参加して

岑 佳維 シン カイ：クラブの先生から詩吟に誘われました。大会の直前でしたので、入るかどうしようかと迷いました。今思えば、入ってよかったと思います。詩吟の先生たちはすごく優しく、何度失敗してしまっても、怒ることなく、できていないところを指摘してくれました。そして、3か月の練習を終えて、ようやく大会にでれました。

今年はウエイブの全国大会でした。一度もステージに上がったことのないことで、私にとっては非常に得難い経験であり、試練でした。

張 睿駿 チョウ エイシン : 私は高校3年生になってから、急に詩吟を始めました。ずっとクラブの先輩たちの姿を見ているなかで、詩吟の魅力を見つけました。それをきっかけに、この高校3年間、最後の期間に詩吟をやってみようと思いました。

クラブの詩吟の時間に一生懸命練習し、詩吟大会のために準備をしました。先生たちのおかげで、詩吟の「姿勢」「呼吸」「口形」を学ぶことができました。

姜 王毅 キョウ オウキ : 詩吟は日本でとても人気のある文化です。詩吟は一見難しいようにみえます。初めは先生たちの話す内容を全然理解できませんでした。そのため、友達に教えてもらいました。

自分も自由練習をしました。先生たちは、いつもやさしく一生懸命教えてくれました。

今年は初めて日本の詩吟大会にでました。舞台ではとても緊張していました。しかし、毎日、自由練習をし大丈夫だと思いました。本番はうまくできました。



▲20分のリハーサル時間で、最後の練習

肖 涛 ショウ トウ : 私は、大会の7か月前から詩吟を始めました。最初は、詩吟を練習して大会に参加すれば大学の面接点数が上がると思ったからです。7か月間に1週間に1回の授業をしました。

毎回、授業の初めに「あ」「い」「う」「え」「お」の発声練習をしました。7月に全国高等学校総合文化祭が来ました。初め、緊張しましたが、終わった時には心が落ち着きました。皆、この期間、本当に頑張りました。この7か月間で皆、成長をしました。私も成長しました。詩吟の授業の先生方に、「お疲れ様でした」と言いたいです。

張 宇昂 チョウ ウコウ : 詩吟に接したのは、第2学期からでした。このような大会に参加したのは、今回が初めてでした。授業はみんなで一生懸命練習をしました。先生も親切に教えてくれました。

準備は十分にしていたのですが、舞台上がるときは、とても緊張しました。特に他の学校の発表を見て、ストレスがとても大きかったです。最後には、みんなのおかげで、無事におわりました。本当によかったです。素晴らしい経験でした。

来学期は先輩たちが参加できなくなります。私はひとりでがんばります。

卒業する生徒さんを想う

中西 淑子（鵬鶯）



再び梅の花が美しく咲き誇っています、卒業の季節がやってきたのですね。生徒さん達は夢と希望で胸が膨らむ思いでしょう。私は、良かったと思うとともに、寂しさも覚えます。今年の四人の卒業生とは、ほぼ三年に渡り長いお稽古をしました。

物怖じをしなく毅然としプロポーションも抜群の用貝美季さん、恥ずかしがり屋さんで、いつも微笑み、おとなしい、しかしちょっぴり負けず嫌いの陳嘉儀さん、ふたりとも吟が上手で容姿も美しく、振袖姿で、鵬翔流吟友会秋の集い、唐津の総文祭、こうち総文祭プレ大会の舞台に立った。

男子の崔湛杭君は相撲部に誘われるほどの大きな身体で、舞台では山型に並ぶ合吟の時には中央に立ったが、気が優しい。王茂堪君は真面目だけれど、お茶目で、袴姿でお化粧をして口紅をつけて皆を笑わした。

いま四人の姿が、ふと思い出される。着物と袴姿、崔湛杭君は明德義塾の法被を着て、詩吟を吟じる前に、中国語で詩文を朗読して観客に感動を与えた。他校の生徒と一緒に合吟でも、負けず劣らず、立派で堂々と吟じた。

これから、いろいろな場面に遭遇する事でしょう。この経験を糧に勇気と自信を持ち続けて下さい。稽古の時の廊下で、詩吟の一期生で、大学四年になった石崎拓馬（相撲部）君と平田仁之助（剣道部）君に出会い、懐かしさが込み上げた。生徒さんは優しく、毎回私どもの手荷物を持って、玄関まで見送って下さり、有難うございました。梶田先生と大野先生のお供で明德義塾中・高等学校の詩吟稽古をして、礼儀正しい生徒さん達に出会えたのは、私にとって得難い宝物です。

詩吟稽古の風景

6年生が稽古から抜けた2学期からの詩吟稽古は、幸い新入生徒が入り4名により行われた。稽古も基本から黒板を使って詩吟の勉強から始まった。コロナ感染対策のために、生徒達の座る間隔も開けて、マスクも適時つけ窓を開けた詩吟稽古であったが、5年生の稽古は、11月28日の鵬翔流吟友会の秋の大会に向けて熱のこもった稽古になった。



▲左より張 麦根、王 晨、王 宇軒、張 宇昂



▲梶田先生は、譜面の読み方を指導

2020年鵬翔流吟友会秋の集い

2020年11月28日に開催された鵬翔流吟友会の秋の集いに5年生の4名が参加した。この会には尾崎正直前知事が来賓の挨拶をし、4名の生徒は合吟“修学”を吟じた。



大会に参加して

王 宇軒 オウ ウケン : この二ヶ月詩吟の練習をしながら、日本の文化も習いました。今度の「風雅を楽しむ秋の集い」は詩吟を好んでいる方々が、一緒に交流するために行われたのです。私は皆の前で詩吟を吟ずることは初めてです。

幾つかのミスがありましたが、順調に進んで完成いたしました。詩歌を発表する機会です。日本人は昔の文化に対する情熱を感じました。この後も詩吟を練習する機会がたくさんあるので、前よりもっと詩情を表現できるように頑張ります。先生たちにも、よろしくお願いいたします。

張 宇昂 チョウ ウコウ : 今回は6年生の先輩たちが参加しなくなりました。私たち5年生の4人だけです。そして前回より人数が少なくなりました。ちょっと緊張していましたが、今回、私はもう二回目ですから、自信がありました。

発表の途中でちょっとミスがありましたが、全体的には円満に完成しました。私たち自身の表現にはあまり満足していません。次回は、もっと頑張って練習して、もっとよくやります。

張 麦根 チョウ バクコン : 詩吟とは、日本語の詩歌を暗誦すること、あるいは日本語で漢詩を朗誦することである。今日の社会、物質の生産は急速に発展して、人々はにぎやかな喧噪の中で頭を下げて前進して、急いで成功を求めている、詩吟を習っているうちに、どうやって自分を落ち着かせるかを学んだ、毎週の練習は大変ですが、仲間と協力し合っていく過程がとても楽しかったです、先生たちも辛抱強く、真剣に教えてくれたです。

普段授業では無味乾燥な詩が、このように美しくなれることを教えてくれました。留学生としてこのような美しい日本の伝統文化を理解し、学ぶことができるのは本当に幸せなことです。

新型コロナウイルスのなかの詩吟の稽古

大野 正夫（正翔）



一昨年（2019年）の11月には、翌年高知で全国総合文化祭が開催されることに、胸を膨らませてプレ高知大会が須崎の文化会館で開催された。6年生の3人が抜けて、5年生の4人は夏に唐津の総文祭と一緒に吟じた仲間たちではあるが、4人になっても、プレ大会には力不足を感じない力量で吟じた。

12月15日に、詩吟の稽古を引退して受験勉強に励んでいた6年生の3人が加わり、宇佐の焼肉屋で送別会を行った。唐津に行った吟友会の宝蔵さん夫妻も参加して楽しい団らんの場となった。華凡欽君は建築家を目指し「将来明德の新築校舎を

設計したい」と抱負を語った。

劉天宇君は、入学の面接に審査員の前で、詩吟を披露して見事に大学入学が決まった。黄金君はビジネス関係の大学と、3人とも東京の大学入学が決まり、冬休みに中国に一時帰国をした。3月の卒業式までには高知に戻るはずであった。

卒業式には、梶田先生の作詩に、吟の節をつけた「明德義塾卒業生を贈る」詩文の稽古に5年生の4人は、1月より稽古に取り組んだ。中西鵬鶯先生や私も吟詠に加わり、卒業式で校歌斉唱の後に、全卒業生の前で吟じることになり熱の入った特訓となった。

しかし、2月初旬になって中国で新型コロナウイルスが発生し、帰国した3名の入国が難しくなり、2月中旬になって卒業式も中止になった。12月の焼肉での送別会が、卒業した3人との最後の別れとなってしまった。多分、今は東京の大学に入学していると思うが、どのような状態になっているかわからない。この冊子が完成したら贈りたい。

残った生徒達と新しく入部した生徒達で、WEB形式で行った全国高等学校総合文化祭は、力量以上の吟詠をした。短い期間であったが特訓を受けた6年生の4人は初めて吟詠をして、詩吟を知った喜びが感想文に書かれていた。鵬翔流吟友会の秋の大会では、新体制の4名で、明德義塾の法被を着て堂々と“修学”を吟じた。

2020年になって、予測ができないコロナ対策をしながらの1年間であったが、この1月には新たな入部生徒もおり、生徒全員は希望を明日へ、一步を歩み始めている。

明鵬吟詠興隆会・会報 第2号発行 2021年2月
明德義塾中高等学校・鵬翔流吟友会 明鵬吟詠興隆会
事務局：大野正夫 〒781-1164 土佐市宇佐町井尻226-2
Tel 090-7145-2456 Email: moseaweed@yahoo.co.jp